

池田 良穂 (大阪府立大学)

名誉教授(客員教授)

新クルーズ学

61

2023/12/10

マイアミで生まれた現クルーズでした。

現代クルーズが、巨大な観光産業に成長した理由の一つに飛行機との連携がありました。

かつて大西洋や太平洋には豪華客船とも呼ばれた大型定期船が就航していましたが、高速の飛行機との競争に敗れて姿を消しました。いわば客船の宿敵とも思われた航空機と手を結んだのが、新しい客船事業であるクルーズでした。速いが狭い航空機と、遅いが船上で楽しめることのできる

このモデルを日本のクルーズマーケットに最初導入したのが「にっぽん丸」の「飛んでクルーズ北海道」や「飛んでクルーズ沖縄」です。ただ、季節的に行われる規

期間で楽しんでもらうことができるようになり、マーケットは現役世代に拡大しました。また船会社としては、マイアミ周辺に限られていたマーケットを全米に広げることができました。各クルーズ会社は飛行機便もセツトにしてクルーズを売り出すことで需要を急拡大することができました。

両者を組み合わせることで、海から遠い地方の人々にもクルーズを短い期間で楽しんでもらうことができるようになり、



来春、沖縄発着のショートクルーズを約3カ月にわたって行うMSCベリッシマ

に寄港します。この沖縄でも船酔いをしないという大きなメリットがあり、専門旅行会社クルーズプラネットが飛行機と組み合わせたフライ&クルーズ商品として販売しています。

このクルーズの魅力は寄港地にあります。基隆では、ジブリの「千と千尋の神隠し」の舞台のモデルとなったとも言われる山間の九份の街、そして基隆の夜市などが楽しめます。さらに沖縄先島の石垣島や宮古島の美しい海と文化を堪能できます。発着港である那覇での観光も魅力的です。

使用船のMSCベリッシマは、欧州船主の大型新鋭船で、船自体が目的地と称されるように船上にも楽しみが満載です。そして全長300mを超える大きさは、荒れた海

でも船酔いをしないという大きなメリットがあります。前回の本コラムでも紹介したように、他の観光との大きな違いは、交通費、宿泊費、食事、イベントなどのすべてが込めの料金なのにリーズナブルな価格というコストパフォーマンスの良さにあります。もちろん、有料のショーやレストラン

から、5泊6日は9万円台から、4泊5日のクルーズは8万円台から、とてもお得。さらに家族同室の3〜4人目は割引があり、子ども料金はさらにお得です。羽田空港、中部空港、福岡空港発着も用意されています。全12航海が連続してきますので、それぞれの予定に合わせたクルーズが選べるのも便利です。

フライ&クルーズの時代

模の小さいものでした。

来春、17万総トン

の大型船MSCベリッシマ

が発着のショートクルーズを約3カ月にわたって沖縄の基隆と石垣島や宮古島

を発展させることになり、那覇発着で、台湾